

鶴見岳・伽藍岳の火山活動解説資料（平成 23 年 3 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

2011 年 3 月 11 日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、鶴見岳・伽藍岳周辺を震源とする地震が一時的に増加しましたが、その後減少しています。

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 3 月の活動概況

・噴気など表面現象の状況¹⁾（図 1）

噴気は観測されませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 3）

2011 年 3 月 11 日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、鶴見岳・伽藍岳周辺を震源とする地震が一時的に増加しましたが、その後減少しています。

火山性地震や火山性微動は観測されませんでした。

1) 鶴見岳監視カメラ（大分県）による。



図 1 鶴見岳・伽藍岳 遠望観測の状況（3 月 31 日 鶴見岳監視カメラ（大分県）による）

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 23 年 4 月分）は平成 23 年 5 月 10 日に発表する予定です。

※この資料は気象庁のほか、独立行政法人防災科学技術研究所、大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 20 業使、第 385 号）。

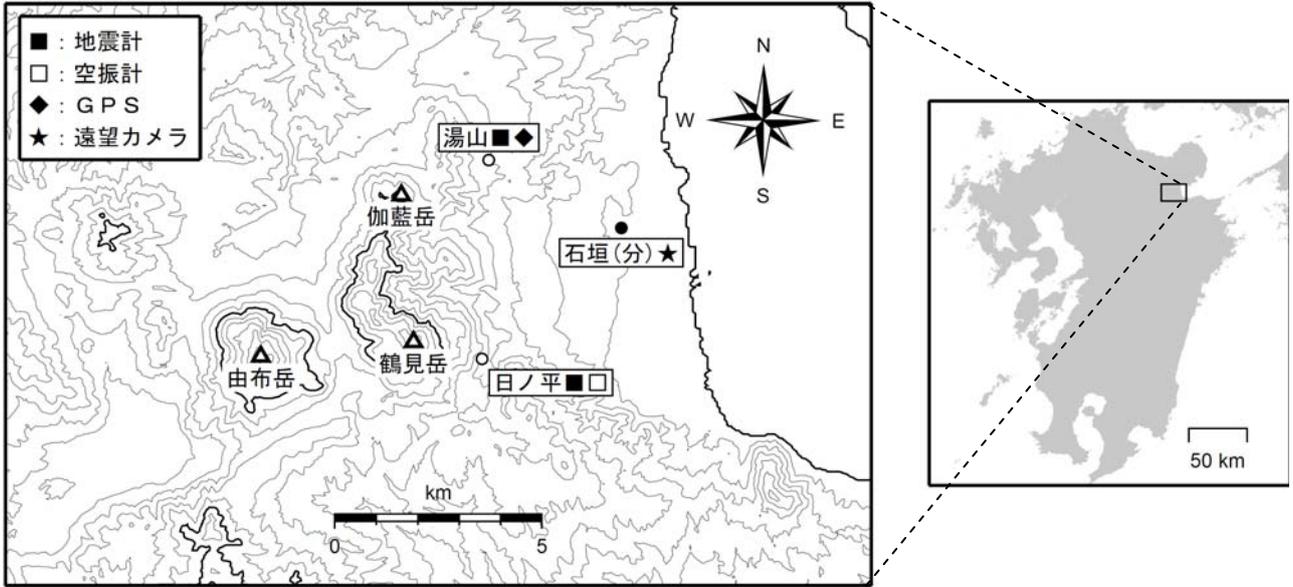


図2 鶴見岳・加藍岳 観測点配置図

小さな白丸は気象庁、小さな黒丸は大分県の観測点位置を示しています。
遠望観測点「石垣（分）」は鶴見岳監視カメラ（大分県）を示しています。

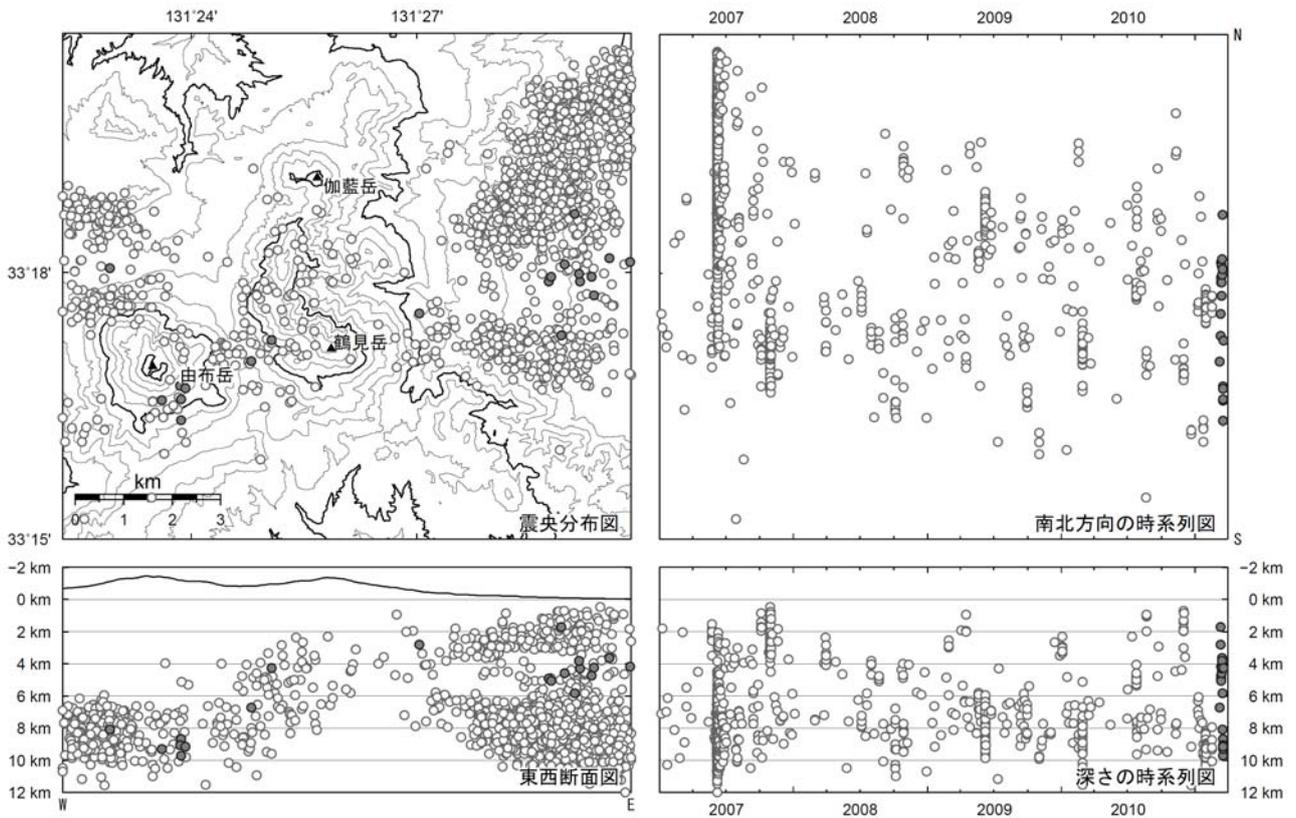


図3 鶴見岳・加藍岳 震源分布図（2007年1月～2011年3月）

< 3月の状況 >

11日に発生した「東北地方太平洋沖地震」以降、鶴見岳・加藍岳周辺を震源とする地震が一時的に増加しましたが、その後減少しています。